

テーマ

生徒が主体的に探究してくための単元構成と ICT の活用

1 本単元の学習のねらい

「1 学年 歴史分野 第四章 1 節 ヨーロッパ人との出会いと全国統一」

- ・戦国時代を終わらせる政策や統一事業をどのように進めていったのかを考察し、表現している。
(思考力、判断力、表現力等)

「2 学年 地理分野 身近な地域の調査」

- ・山形市の新保育園はどこにつくるべきか、地形的要素を踏まえ提案している。
(思考力、判断力、表現力等)

「3 学年 公民分野 第三章 “現代の民主政治と社会” 3 節 “地方自治と私たち”」

- ・地方自治の意義・二元代表制の特徴・地方公共団体の課題と住民としてのかかわり方について、とらえている。
(思考力、判断力、表現力等)

2 研究への取り組み

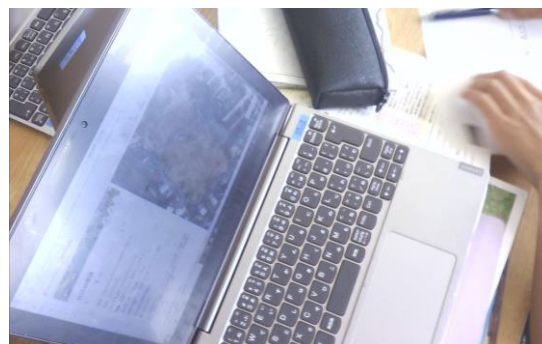
- ・単元を探究的に学習していくために、単元を「課題把握」「課題追究」「課題解決」「振り返り」の4場面に分類する。4場面それぞれに対して、適切かつ効果的に ICT を用いることで、生徒が主体的かつ持続的に学習していくとともに、自身の学びを自己調整しながら学習を進めていくことを目指す。

3 主な学習活動

学習場面	主な学習活動と活用した ICT 機器・教材・コンテンツ等
課題把握	①電子黒板に提示された各種資料から特徴を見出す。 ②タブレットを用いて Web 検索することで、社会事象に対する関心をもつ。 ③タブレットを用いて Web 検索することで、問題点に気付く。 ④学習の見通しを電子黒板に提示し、課題解決の見通しをもつ。
課題追究	①電子黒板に提示された資料を用いて、特徴・変容の読み取り方を知る。 ②課題に対する自身の考えを、マイクロソフトの各種アプリ (Teams, Power point, Word) を用いて作成する。
課題解決	①互いの構想を電子黒板やタブレットに提示して共有し合う。 ②共有した考えをもとに、自分自身の考えの結論を作る。
振り返り	①課題追究場面で知識・技能を定着させるために Qubena に取り組む。

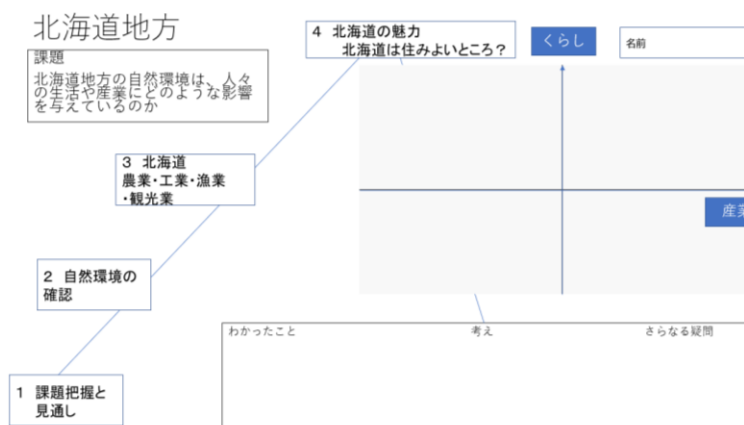
4 授業の実践より ～ICT 活用の効果と課題～

○リアルタイムでの現在の状況を知るためには Web 検索は大変効果的である。第三学年公民の地方自治分野では、本市山形市の財政状況や、地方公共団体が取り組んでいることについて、“今”の様子を知ることができ、課題を自分自身との関わりの中での確に把握することにつながった。また、第二学年の地理（身近な地域）に関する導入においても、Web 検索による地図分析により、山形市の状態・現実について確認することができた。



<全学年…課題把握場面>

○学習の流れについて見通しを持つために、学習プロット図（授業終盤ではレポート紙となる）を電子黒板に提示した。一斉提示となり、教室内にいる生徒全員で学習の流れを把握できるようになった。
 <第三学年・第二学年
 …課題把握場面>



○課題についての自身の構想を、タブレットを用いて表現させた。Web 検索をした結果の掲載が容易であり、なおかつ視覚的にわかりやすいレポートを作成することが可能となっている。
 <全学年…課題追究場面>



○Teams でワークシートの配信および提出させ、その内容について電子黒板に投影することで、作成・提出したワークシートを互いに見合う機会を設けることが容易にできた。これにより、学習内容の理解をより深めるとともに、自分自身では気が付かなかった新たな視点や考え方に、気が付くことができるきっかけとなった。
 <全学年…課題解決場面>

○1 時間の授業の終末に問題演習的振り返りの機会を設けた。Qubena を用いて復習する生徒については、実際の問題に触れることにより理解が深まるとともに、解説を読むことで学習のポイントを把握することもできるようになった。また、Qubena の選択問題型の出題は選択クイズ的な要素もあり、取り組みやすい内容である。
 <全学年…振り返り場面>



●Web 検索をした場合に、得られる情報が多すぎて取捨選択をしなければならない状況になる。その場合、情報を選択するための根拠が必要であり、それが本時そして単元を通した課題の把握とつながるといえる。そのため、より生徒が学びたいような課題の設定はもちろん、課題解決のための道筋（解決するために必要な情報などの把握）を明確にしておく必要がある。
 <全学年…課題把握、課題追究場面>

5 ICT を効果的に活用するポイントなど

- (1) ICT を活用した場合、検索して得られる情報量が膨大となる。膨大な情報量に対して、取捨選択して自身が必要とする情報のみを効果的に抽出できるようにする技術と指導（課題意識の持たせ方や、問題解決に向けて必要な情報が何かを明確にすること）が必要である。
- (2) ICT の動作速度や接続環境を踏まえて、周到的な準備をすることと、授業時間に余裕を持たせる必要がある。
- (3) AI 型の学習ドリルは生徒にとって学習しやすいものである。授業の導入場面・終末場面に、取り組む時間を設定することで、より効果的な復習の機会となりうる。